



環境改善目標1

希少植物の生息域外保全

活動の意義と育成する“和の花”について

2023年度

フタバアオイ フジバカマ ヒオウギ
キクタニギク オミナエシ アヤメ
ワレモコウ イワギボウシ



活動の背景 希少になっていく野生植物

京都府レッドデータブック(RDB)の2022年改訂版レッドリスト(RL)が本年2月に公表されました。植物の掲載種数は、改訂ごとに増えています。原因は様々ですが、多くの植物の自生地の環境が危機にあることを示します。

(表) 京都府RDB(RL)に掲載された種子植物の種数の推移

カテゴリー	2002年	2015年	2022年
絶滅種(※1)	62	45	46
絶滅寸前種	157	217	252
絶滅危惧種	142	222	236
準絶滅危惧種	142	180	176
要注目種(※2)	54	75	78
ノミネート種数	557	739	788
ノミネート割合(※3)	約23.7	約31.4	約33.5 (%)

※1……絶滅種数の2015年の減少は調査による自生地の発見があったため。

※2……外来種を除く要注目種の数

※3……ノミネート種数が府内の種子植物約2,350種に対する割合(2015年版「全国的に見て非常に高い数値」)

ありふれた……はずの植物が消えていく。例えば……

消える秋の七草（七種）

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花
——山上憶良（万葉集・巻八）



ハギ(マメ科、写真は
ナンテンハギ)



カワラナデシコ（ナデシコ科）
京都府RD記載ないが減少



フジバカマ（キク科）
京都府RDB:絶滅寸前種



ススキ(イネ科)



クズ(マメ科)



オミナエシ（スイカズラ科）
京都府RDB:準絶滅危惧種



キキョウ（キキョウ科）
京都府RDB:絶滅寸前種

希少植物保全の2つの方法について

希少な植物(生物)の保全には、2通りの方法があります。基本的には生息域内保全が望ましいのですが、自生地環境が大きく変化中での緊急的な措置として、また、生息域内保全に至るまでの手段として、生息域外保全はますます重要となっています。

生息域内保全 (自生地の生態系の中での保全)

(例) 里地・里山の管理と利用、獣害対策(シカによる食害は京都では特に深刻)、外来種(国外・国内)の駆除、水質保全……

生息域外保全 (自生地ではない場所での保全)

(例) 系統保存(交雑を避けながら長く栽培・保存)、種子・孢子保存、園芸的な保存(植物に親しむ生活文化を背景にした園芸家等による栽培)、バイオ技術による培養……

※市街地では、容器栽培での育成も有効。繁殖技術の継承も大切。

国際自然保護連合 生息域外管理は、生息域内管理を補完するツールとなり 非常に重要な役割を担う可能性がある。

ローカルという
視点でみる

生息域外保全の重要性と留意点

国（環境省）レベルの対策

「種の保存法」を改正(2017)。指定種の生息域外保全支援等の事業を強化。このうち植物種は122種を指定。

◆環境省と(公社)日本植物園協会の協定（2017年～）

生息域外保全の実施状況に関する情報の共有、種子保存、繁殖技術等の確立、
自生地情報・遺伝情報の整備、野生復帰の研究等について植物園のネットワーク
を通じて連携・協力（「希少野生植物の生息域外保全検討実施業務」）

各都市(自治体)レベルで見ると……

ローカルなレベルで絶滅の危険度が高い種が、国レベル(種の保存法指定種)の数よりも多く存在します。特に「秋の七草」のように、身近にありふれていたのに近年急速に失われているローカルな絶滅危惧種を掬(すく)い上げることが重要です。京都では歴史文化的な背景から、その重要性に気付く関係者が多いといえます。

留意点 ある植物について、現在も自生地があるにも関わらず、「同じ種だから」という理由で他の地域から持ち込むと、その自生地の植物群落の遺伝的固有性(多様性)を脅かすことになりかねません。「生息域外」に持ち込んだ植物が、場合によっては「外来種」(国内外来種)ともなりうることに注意する必要があります。 ⇒「逸出」を防ぎ、第三者への譲渡は抑制的に

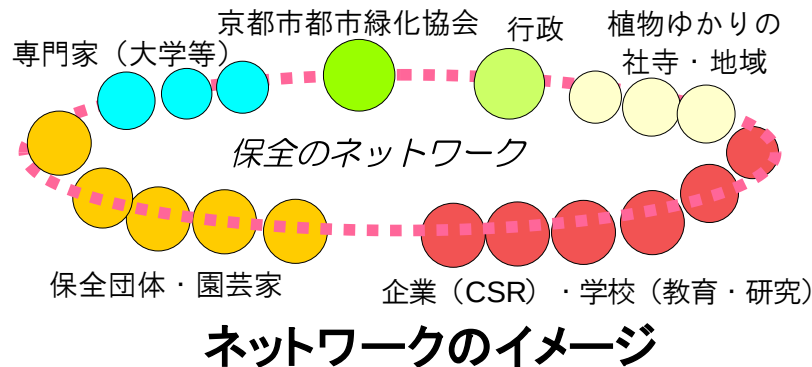
※3月1日付提供【別紙2-1】もご参照ください。

ネットワークで行う意義について

～危険分散・まちに広げる・関心を高める～

- ◆身近(都市部)で行う栽培……危険分散、レフュジア(避難地)となる

管理のしっかりした企業・団体、市民団体、専門家、行政などが協力しあうことによる保全と危険分散自体が大きな意義を持っています。



- ◆社内・社外での広報……都市住民である私たちが、都市と生物多様性の関係について関心を高め、また周囲に知識を広める役割を担う。
- ◆この取組みが、自社、地域の緑化や都市の外での活動のきっかけにつながる。

希少植物保全の活動(緑化協会の例)



京都新聞 2013年10月28日



2023年度に取り扱う植物(8種)について

フタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギ、キクタニギク、オミナエシ、アヤメ、ワレモコウ、イワギボウシ

※カワラナデシコ、クリンソウ、ノカンゾウ、タムラソウ、ノハナショウブは今年度は扱いません。

3月1日参加団体配布資料【別紙1-2】希少植物の生息域外保全活動 植物栽培方法等の比較

(注1) 実生……種子から発芽した苗を育てること

(注2) 少なくとも平日(毎日)の管理ができる場合の育てやすさ

	種名 (科名)	レッドデータブック 記載ランク(国、府)	花期	自生地の環境	栽培環境・方法 (容器栽培として)		殖やし方 【文難しやすい植物 は実生(※1)を推奨 しない】	育てやすさ(注 2) 5(易)~1(難)
					日照	水やりの注意		
A	フタバアオイ (ウマノスズクサ科)	—	3~5月	落葉樹林下	春先は明るい場所、5月以降は半日陰、盛夏は日陰に置く。	水はけの良い土で、ムレないように。5月~9月は乾燥に注意する。	株分け、実生	3
B	フジバカマ (キク科)	環境省準絶滅危惧(NT) 京都府絶滅寸前種	9月下旬~10月	川の堤防、水田 周辺などの明るい水辺	日当たり好むが、盛夏の西日は苦手。	盛夏は腰水灌水、1日2回(灌水が不可能なら日射を避ける)。	株分け、挿し芽	4
C	ヒオウギ (アヤメ科)	京都府準絶滅危惧種	7月中旬~9月	海岸の草地、海岸林、山の草地	日当たり好む。	乾燥には強いが、花期前・盛夏は日射と乾燥による葉焼けに注意。	株分け、実生	5
D	キクタニギク (キク科)	環境省準絶滅危惧(NT) 京都府絶滅危惧種	10月下旬~11月	乾いた川の法面、 山麓の土手	日当たり好むが、盛夏の日射は苦手。短日植物であり、夜間照明の近くに置かない。	乾燥にはやや強いが、盛夏は乾燥に注意。	挿し芽	4
E	オミナエシ (スイカズラ科)	京都府準絶滅危惧種	8月~10月	日当りの良い湿った草地	日当たり好む。	夏は乾燥に注意。	株分け、実生	4
G	アヤメ (アヤメ科)	京都府絶滅危惧種	5月	山地のやや乾いた草原	日当たり好む。	乾燥には強いが、盛夏は乾燥に注意。	株分け(1~2年に1度の植替え時)	5
H	ワレモコウ (バラ科)	—	7月~10月	山間の草地、水田 周りなどの里草地	日当たり好むが、盛夏はできれば半日陰が良い。	夏は乾燥に注意。他の季節はやや乾燥気味に。	実生	4
M	イワギボウシ (キジカクシ科)	京都府準絶滅危惧種	8月~9月	山中の湿った岩上 や樹上	春先は明るい場所、5月以降~秋は半日陰で育てる。	湿気を好み、乾燥には強くない。表土が乾いたら十分に灌水。	株分け、実生	4

植物1 フタバアオイ (ウマノスズクサ科 多年草)



Asarum caulescens

ウマノスズクサ科 多年草

京都府RDB 記載なし

花期 3 ～ 5 月。

日本固有種。本州、四国、九州に分布しますが、7つの県では絶滅危惧・準絶滅危惧種となっています。

- ・上賀茂神社・下鴨神社の神紋
- ・葵祭(賀茂祭)で使用(1万数千本)。
全ての参列者の衣冠、御所車などに「葵桂」を挿した飾りを付ける。

※フタバアオイについての詳細は、
(一財)葵プロジェクト様の資料をご覧ください。



斎王代と女人列 (写真提供 上賀茂神社)



上賀茂神社での「葵里帰り式」の様子
(例年5月上旬)

植物2 フジバカマ (キク科 多年草)



学名 *Eupatorium japonicum*

秋の七種(七草)の一つで、『源氏物語』など文芸ににたびたび登場する。水辺を好みますが、現在、自生地はごく限られます。

葉には独特の芳香(クマリン)があり、香料や薬用にされ、古代から貴族の男女が衣服や髪にしのばせていました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。

環境省RDB:準絶滅危惧(NT)

京都府RDB:絶滅寸前種

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花
——山上憶良 (万葉集・巻八)

トピック

同じ万葉集では、元号「令和」の出典「梅花の歌三十二首」の序(巻五)に「蘭」(らん)という別名でも登場します。

「初春の令月にして、気淑(よ)く風和(やわら)ぎ、梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香を薫(かお)らす」

「フジバカマ」には2種あり、自生種(左)は絶滅の危険性が高まっています。

両者はシノニム(別名)でなく、別種と考えられる(村田源氏)



自生種

Eupatorium japonicum

水田や河川・湖沼の水辺
(草地)に自生

京都府RDB絶滅寸前種



一般に流通

Eupatorium fortunei

全体に小振りで扱いやすく、
庭の植栽や切り花などに使
われる

フジバカマが結ぶネットワーク

藤袴と和の花展

2009年秋～

1998年に数十年ぶりに市内で見つかった株を藤井肇氏が域外保全。これを元に、KBS京都・緑化協会が挿し芽、鉢植えで保全し毎年秋に展示してきました。KESエコロジカルネットワークの鉢も展示します。



梅小路公園「朱雀の庭」



まちなかを彩る



藤袴祭（寺町通など）

休耕田を利用した保全



嵯峨水尾



大原野



立命館大学（衣笠C）

フジバカマに訪花する渡りの蝶 アサギマダラ



フジバカマの蜜を求めて、秋に北の地方から飛来します。蜜の成分を使って性フェロモンをつくるために、特にオスが多くやってきます。

渡りのルートを明らかにするため、マーキング調査が行われています。京都市からも台湾まで渡った個体がいくつも確認されています。

写真(上)は、数日前に滋賀県で捕獲され、水尾(右京区)で見つかった個体

(撮影:秦賢二氏)



植物3 ヒオウギ

(アヤメ科 多年草)

学名 *Iris domestica*



日本のほか、台湾、朝鮮半島、中国大陆、インドなどにも広く分布します。

7月中旬ころから、祇園祭に合わせるように花茎がするすると伸び、赤い花を咲かせます。厄除け、魔除けとして街で飾られ、根茎は、風邪などに効く生薬「射干」(やかん)として重宝されました。名の由来は、葉の样子が木製の「檜扇」に似ているためとも、「緋扇」とも。

環境省RDB:記載なし

京都府RDB:絶滅寸前種(2022年版)

(2015年版は準絶滅危惧種だった)

トピック

ダルマヒオウギ(右)

祇園祭の「屏風祭り」で一般に飾られるのは、ヒオウギの変種ダルマヒオウギ(宮津市産が有名)。花色、葉の形は様々で、草丈は低く屋内の飾りに適しています。



ヒオウギの種子 めばたま、うばたま、むばたま (射干玉、烏羽玉)

漆黒で、黒髪のように艶があることから、
黒、髪、夜、夢などにかかる枕詞に。



茶菓子のモチーフにも。



和名の由来となった飾り檜扇（ひおうぎ）の例

うばたまの 我が黒髪や かはるらむ
鏡のかけに 降れる白雪

—— 紀貫之（古今和歌集四六〇）
※かみやかは（紙屋川）が読み込まれている。

めばたまの 夜の更けぬれば 久木生うる
清き川原に 千鳥しば鳴く
—— 山部赤人（万葉集九二五）
ひさぎ

植物4 キクタニギク (キク科 多年草)



がけ地に自生するキクタニギク（西山）

学名 *Chrysanthemum seticuspe* (f. *boreale*)

本州・九州・四国の一部の府県、朝鮮半島・中国大陆(北部・東北部)に分布。

京都の東山から流れ出る菊溪(菊谷)川の河川敷に自生していたのが和名の由来ですが、現在、東山では野生は確認できません。

晩秋に明るい小さな花を次々と咲かせます。牧野富太郎は「アワコガネギク」の別名を付けました。若葉は清々しい香りがし、食用にも。花から精油をとって香料にしたり、江戸時代には油漬けにして傷薬にしました。

菊溪は江戸期の名所案内に数多く登場。本居宣長が没年に「古の人に契りを結びみん 住みける跡ときくの谷水」と読むなど、全国から多くの文人が訪れました。

環境省RDB:準絶滅危惧(NT)

京都府RDB:絶滅危惧種

トピック 広義キク属のモデル生物 広島大学等による国家プロジェクト「NBRP 広義キク属」が進展。純系化されたモデル系統がゲノム解析され、キクタニギクは広義キク属のモデル生物に位置付けられました。

京都伝統文化の森推進協議会による 「キクタニギクの花咲く菊溪の森づくり」

照葉樹林化し、暗くなった東山の森林を間伐し、明るくなった場所に、地域制種苗であるイロハモミジなどの苗木とキクタニギクが多くの市民、団体が参加して植えられています。キクタニギクについては、**KESエコロジカルネットワークからの提供株**が用いられています。

☀️ キクタニギクの花咲く菊溪川の再生へ

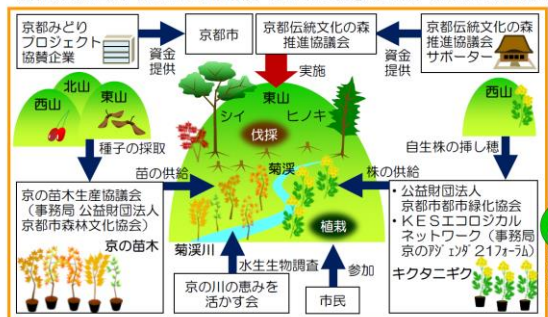
京都伝統文化の森推進協議会（略称：伝文）と連携し、シイ林の林相改善事業（H19～）の一環として、キクタニギクの花咲く菊溪川の再生を目指しています。

市民、地域、企業の皆様との協働により、シイやヒノキなどの光を遮る常緑高木を約80本伐採し、平成29年3月4日には、明るくなった菊溪に、キクタニギク50株や、ムラサキシキブなどの「京の苗木」5種類約80本を植栽しました。今回、キクタニギクの株は、KESエコロジカルネットワーク参画企業11社からも提供いただきました。

また、「京の川の恵みを活かす会」に協力いただき、今後の菊溪における水生生物相の変化を把握するため、伐採前の水生生物の生息状況を調査しました。

キクタニギクの株の提供企業

京都生活協同組合、株式会社元奈古、日本新美株式会社、光星電工株式会社、武村建設株式会社、吉田商事株式会社、アール・エス・ティン グリフ 株式会社、阪神トラック株式会社、株式会社西川製作所、株式会社三協電機製作所、株式会社吉川工務店



協働の森づくりイメージ



約110名が参加し、キクタニギク等を植栽

※ キクタニギクは、花言葉「押し合わず」「寄り添うように」とあるように、11月頃、小さな黄金色の花をたくさん咲かせる野菊です。乾いた崖などに生える多年草で、日当たりを好みます。和名は、かつての菊の名所「菊溪（菊谷）」に由来しますが、京都府レッドデータブック2015では、絶滅危惧種に区分され、「和名のもとになった京都府東山区菊谷では絶滅」と記されています。

伝文では、調査、策定などの森づくり活動や京都三山を学ぶ公開セミナーなどの参加者を募集しています。詳しくは、[京都伝統文化の森](#) 検索



「四季彩りのもりづくりだより」No.5 より

地域性種苗(苗木とキクタニギク)の育成から植栽までの流れ

2017年より毎年3月頃、植栽するイベントが行われている。

植物5 オミナエシ (旧オミナエシ科・スイカズラ科 多年草)



学名 *Patrinia scabiosifolia*

秋の七草の一つ。北海道～九州、朝鮮半島、中国東北部、台湾、千島、サハリン、東シベリアに分布。日当りの良いやや湿った山野に自生。

京都では越畑(右京区)が切花の産地として有名です。

別名「あわばな」のとおり、茎の先に、粟粒ほどの細かい花が集まって咲きます。

盆花に使うほか、乾燥した根、茎、花は、解熱、消炎、解毒に効く生薬「**敗醬**」(はいしょう)となります。

環境省レッドデータブック:記載なし

京都府レッドデータブック:準絶滅危惧種



オミナエシは、繊細な姿から「女郎花」と書きますが、近縁種に、白い花を咲かせる、やや大型のオトコエシ(男郎花)があり、二つの花は、対と考えられてきました。



オトコエシ

文芸などで親しまれてきたオミナエシ

別名「あわばな」のとおりに、細い茎の上部で何度か分枝した先に粟粒ほどの黄色の細かい花が群がって咲きます。古くから観賞されてきたオミナエシは、優美で、はかないイメージから、『源氏物語』、和歌など古典文学で非常に好まれた花です。

平安時代、宮中では、物合わせ(互いに物を出し合って優劣を競う遊び)の一つ「女郎花合わせ」があり、オミナエシに添えて歌を出し合って競いました。

能楽、謡曲の「女郎花」は、石清水八幡宮がある男山(八幡市)が舞台です。契りを交わした男に裏切られ、女が身を投げた川の河原に、オミナエシが咲いていました。男が近づくと、オミナエシの花は背を向けました。男はその女の悲しみの深さに気づき、同じく身を投げた、という悲しいストーリーです。



花を残しながら紅葉したオミナエシ
(緑化協会事務所)

紅葉するオミナエシ

江戸期の怪異小説集『雨月物語』で知られる上田秋成はかなりの花好きで、オミナエシについて、「花のさかり過ぎたるを中より刈りて、下枝の秋の末にいたりて、花より葉はもみぢする、尤(もっと)も奇也。風人しらず(=歌人のような風流な人でも知らない)」と自慢しています(『膽大小心録』)。

晩秋まで地上部が残っていれば、美しく紅葉する可能性があります。

植物6 アヤメ

(アヤメ科 多年草)

学名 *Iris sanguinea*



「いずれあやめかかきつばた」と言われるほど、美しい花を咲かせます。花が似る近縁(同属)のカキツバタ、ハナショウブは水生なのに対し、アヤメは陸生です。また花の黄と紫の文目(あやめ)模様でも見分けられます。

日本(北海道、本州、四国、九州)のほか、朝鮮半島, 中国大陸東北部, シベリア東部に分布します。

京都府内ではもともと自生のものは少ないとされてきましたが、近年シカの被害を受けてさらに減りつつあります。府レッドデータブックでは「準絶滅危惧種」(2002)から、「絶滅危惧種」(2015)にランクアップしています。

環境省レッドデータブック
京都府レッドデータブック

記載なし
絶滅危惧種



アヤメは、草丈30～40cmと、近縁のハナショウブなどに比べて背丈は低く、葉が細身で真っ直ぐ伸びます。

花期は5～6月。原種の花色は紫で、爪部(外花被片の基部)は、黄色地に紫色の細い脈が文目(虎斑)の模様をつくります。栽培品種もいくつかあります。

和歌では「花あやめ」とも言います。漢字では「菖蒲」と書き、古い文献ではハナショウブやサトイモ科ショウブとの区別がつかないこともあります。

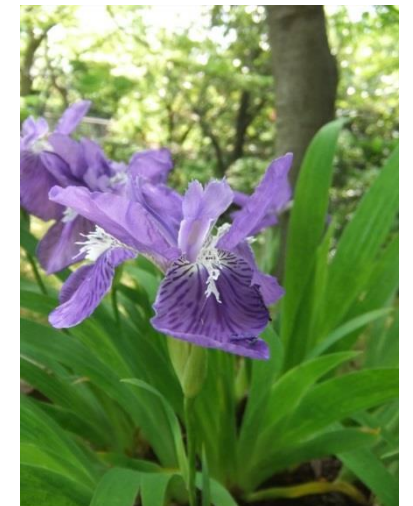
平安の昔から、端午の節句に都の家などで行われていた、軒に菖蒲を挿す「菖蒲葺く(あやめふく)」の風習は、ショウブのことです。



冷泉家に伝わる白花の品種

近縁種ヒオウギアヤメ (*Iris setosa*)

花期は6～8月、花は紫～青色で、名は花がアヤメに似て、葉がヒオウギに似ることから。アヤメ、ヒオウギとは異なり湿地のみに自生。



植物7 ワレモコウ (バラ科 多年草)



学名 *Sanguisorba officinalis*

秋に紅紫色の穂状の小さな花をつけます。草丈は70cm～100cmほどで、時に2m近くなるものもあります。葉は楕円形で縁に鋸歯があります。

東アジア、シベリア、欧州に広く分布します。やや湿った丘陵、農地のまわりの里草地などに自生します。京都周辺では、北山、西山に点在していましたが、近年、見かけることが減りました。

環境省レッドデータブック 記載なし
京都府レッドデータブック 記載なし

和名の由来と生活文化

諸説あります。茎や葉にかすかな香りがあるので、「日本産の木香」の意味(和木香、吾木香)から、「吾も嗅ぐ」から……などなど。

漢字では「割木瓜」「吾亦紅」などとも書かれます。このうち「吾亦紅」の表記は、花が自ら「吾もまた紅なり」と言ったから、という昭和初期の小説のタイトルです。

わびさびを感じさせる地味な姿や色合いから、茶花、生け花、盆花としてよく使われます。また、ドライフラワーにして、クラフトの材料としても楽しめます。

有用植物としてのワレモコウ

- ・**生薬** 根茎を天日乾燥させたものは、生薬「地榆」(チユ、ジユ)となり、吐血、下痢、やけどなどに
- ・**医薬部外品** ワレモコウエキスが、薬用せっけん、育毛剤、薬用はみがき類、浴用剤などに
- ・**食用** 春の若い葉は、湯がいて食用にもされました。

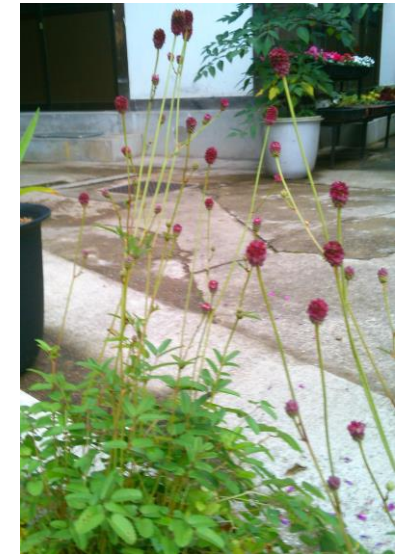


『源氏物語』にも登場 (風流な趣味として)

第42帖「匂宮」……老を忘るる菊に、おとろへゆく藤袴、ものげなき(=さほど見栄えしない)**われもかう**などは、いとすさまじき霜枯れのころほひまで思し棄てず……(「われもかう」の名は文献では『源氏物語』が初出)

近縁種

日本にはカライトソウ、シロバナトウチソウなど8種と変種が自生。品種改良もされ、矮性のヒメワレモコウなどが流通しています。府内ではコバナワレモコウが絶滅寸前種になっています。



ヤクシマワレモコウ

植物 8 イワギボウシ (キジカクシ科 多年草)



学名 *Hosta longipes*

山中の湿った岩場や樹上を好み、草丈は20～40cmほどの小型。お盆を過ぎ涼しくなり始める8～9月に、薄紫色の花を多くつけます。葉は多くなく、長い葉柄があり、先がやや尖っています。

東北南部から近畿地方にかけての本州にだけ分布する日本固有種です。府内では、京都市北部から北でしか見られません。

環境省レッドデータブック 記載なし
京都府レッドデータブック 準絶滅危惧種



イワギボウシ(1829作図) 毛利梅園「梅園草木花譜」(国立国会図書館所蔵)

ギボウシの名は、一説に、橋の欄干の柱を飾る「擬宝珠」が転訛したとされます。

平安時代～鎌倉時代前半にはすでにその名があり、京の宮中で使われていました。(「堤中納言物語」に初出)

漢字での表記は、江戸時代まで「玉簪」でタマカンザシの別名がありました。これは中国から輸入された品種「タマノカンザシ」の表記が誤って広まったためと考えられます。

「イワギボウシ」の名は、江戸後期には本草書に現れており、近縁の種と区別されるようになりました。

府内には、ミズギボウシ(府絶滅危惧種)、オヒガンギボウシ(府準絶滅危惧種、イワギボウシの変種)など近縁の数種が自生します。しかし、多くが希少になりつつあります。

イワギボウシの葉は多くなく、長い葉柄があり、葉先は尖っています。また、葉柄に紫色がかった細かい点があるのが特徴です。(右写真)



イワギボウシは、岩場や樹上を好むように通気性を必要とするため、「鉢植え」やロックガーデンが適しています。

注目 ギボウシ類(英語でホスタ)は欧米では人気で、日本から渡って改良され、逆輸入されたものもあります。園芸店では「ホスタ」という方が一般的かもしれません。

多くの品種があり半日陰～日陰につくる「シェードガーデン」で使いやすく、人気が高まっています。

また、トウギボウシ(オオバギボウシ、左上写真)などは、地方によっては春の山菜(別名「ウルイ」、左下写真)として栽培もされています。



ご案内

和の花など緑に関するご相談

(公財)京都市都市緑化協会では、緑に関するご相談を受け付けています(無料)。KESエコロジカルネットワークで取り扱う「和の花」の育て方や、その他「緑」に関するご相談がありましたら、お気軽にご相談ください。

■育成の仕方について

花とみどりの相談所(梅小路公園内)

水曜日・土曜日 10～12時、13時～16時(年末年始をのぞく。)

TEL 075-561-1980

■保全・活用、緑のボランティア活動などについて

都市緑化・緑のまちづくり支援担当

月～土曜日 9～12時、13時～17時(年末年始をのぞく。)

TEL 075- 352-2535 ／または 561-1350

(公財)京都市都市緑化協会